

# ケアリングが広げる 多職種協同の可能性

ハマナス音楽 & 看護療法研究会

◎ 吉武ゆり 猪股千代子

# 倫理的配慮について

- 対象者には,研究の目的や発表時の匿名性の保持等の説明を行ない,同意を得られた方を対象にしました。

# 多職種協同では

- 専門性による見解やアプローチ方法の寄せ集めではなく、**それぞれの職能が生かされ**、さらに各々の働きだけでは得られない**相乗効果**を生み出す**場**と**チームワーク**が成される必要がある

# ケアリングが多職種協同に 有効である可能性

- 多職種協同をつなぐのは **関係性** と **相互成長**
- ケアリングは  
**間主観の関係性と相互成長を促す**

# ケアリングとは

- 看護の中心的価値
- 1.対象者との**相互的な関係性**、関わり合い
- 2.対象者の**尊厳を守り大切にしようとする**看護職の理想、理念、倫理的態度
- 3.気づかいや配慮が看護職の援助行動に示され、対象者に伝わり、それが対象者にとって何らかの意味（安らかさ、癒し、内省の促し、成長発達、危険の回避、健康状態の改善等）をもつ  
また、ケアされる人とケアする人の**双方の人間的成长**をもたらすことが強調されている用語である。

統合医療 と ケアリングの

人間観 健康観

# ケアリングの人間観 健康観

- ・ 人間は心・体・魂のゲシュタルトという全体的存在
- ・ 人間を深化・経験するスピリチュアルな存在とみなす。
- ・ 健康とはプロセスであり,内的経験として非常に主観的。  
看護師と患者はともに参加する。
- ・ 健康は,身体-心-スピリットが統一され調和している状態

「ワトソン看護論」より

# 統合医療とは

## ・ 統合医療の目指す方向性

1. QOLの向上を目指し、患者一人ひとりに焦点をあてた患者中心の医療
2. 近代西洋医学及び伝統医学や相補・代替医療従事者による共同医療  
(真のチーム医療)
3. 身体、精神のみならず、人間を包括的に診る全人的な医療
4. 治療だけでなく、疾病の予防や健康増進に寄与する医療
5. 生まれてから死ぬまで一生をケアする包括的な医療
6. 「尊厳ある死 (Death with Dignity) 」と、患者だけでなく残された遺族も満足できる「良質な最期のとき (QOD : Quality of Dying and Death) 」を迎えるための医療

# 統合医療 と ケアリング の 健康観

## ケアリング

- 心・肉体・魂が統一し調和していること
- プロセスであり主観的

## 統合医療

- 全人格的・包括的
- 一人一人に焦点
- QOLからQOD

# ワトソンのケアリングの特徴的な概念

- 間主観の関係性
- 「10のケア因子とカリタスプロセス」

# ケアリングの10の因子①～ジーン・ワトソン看護論

## 10のケア因子 Watson,1979

## カリタスプロセス Watson,2008

1 価値観の人間的-利他的システム

自己と他者に対する愛情-優しさ  
/共感と冷静さの実践

2 信仰-希望をもてるようにする

心を込めてそこに存在していること;自分と他者が信念体系や主観的世界をもてるようにする

3 自分自身と他者との感受性を磨く

自分自身のスピリチュアルな実践を磨く;自己を超えて真正のトランスパーソナルな存在へ

# ケアリングの10の因子②～ジーン・ワトソン看護論

10のケア因子 Watson,1979

カリタスプロセス Watson,2008

4 助けること-信頼、  
ヒューマンケアリングの関係

愛情に満ちた信頼をケアリングの関係を維持する

5 プラスの感情もマイナスの  
感情も表出する

感情の表出を許容する;よく耳を傾け、その人にとっての物語を理解する

6 創造的な問題解決の  
ケアリングプロセス

自己というものを使いこなし、ケアリングプロセスを通して創造的な問題解決を探る; 知ること/行動すること/であることというあらゆる方法を用いる;ヒューマンケアリング-ヒーリング過程と様態というアート性に関わる

# ケアリングの10の因子③～ジーン・ワトソン看護論

10のケア因子 Watson,1979

カリタスプロセス Watson,2008

7 トランスパーソナルな教育-  
学習

ケアリングという文脈での真の教育-  
学習; ケアを受ける人が基準とする  
枠組みに留まる; 健康-ヒーリング-  
ウェルネス・コーチングモデルへと移  
行する

8 支援的・保護的、および/あ  
るいは修正的な精神的・身  
体的・社会的・スピリチュア  
ルな環境

すべてのレベルで治癒環境を創造す  
る; エネルギー・意識・全体性・美し  
さ・尊厳・平安について、身体的にも  
非身体的にも、行き届いた環境を整  
える

# ケアリングの10の因子④ ~ジーンワトソン看護論

10のケア因子 Watson,1979

カリタスプロセス Watson,2008

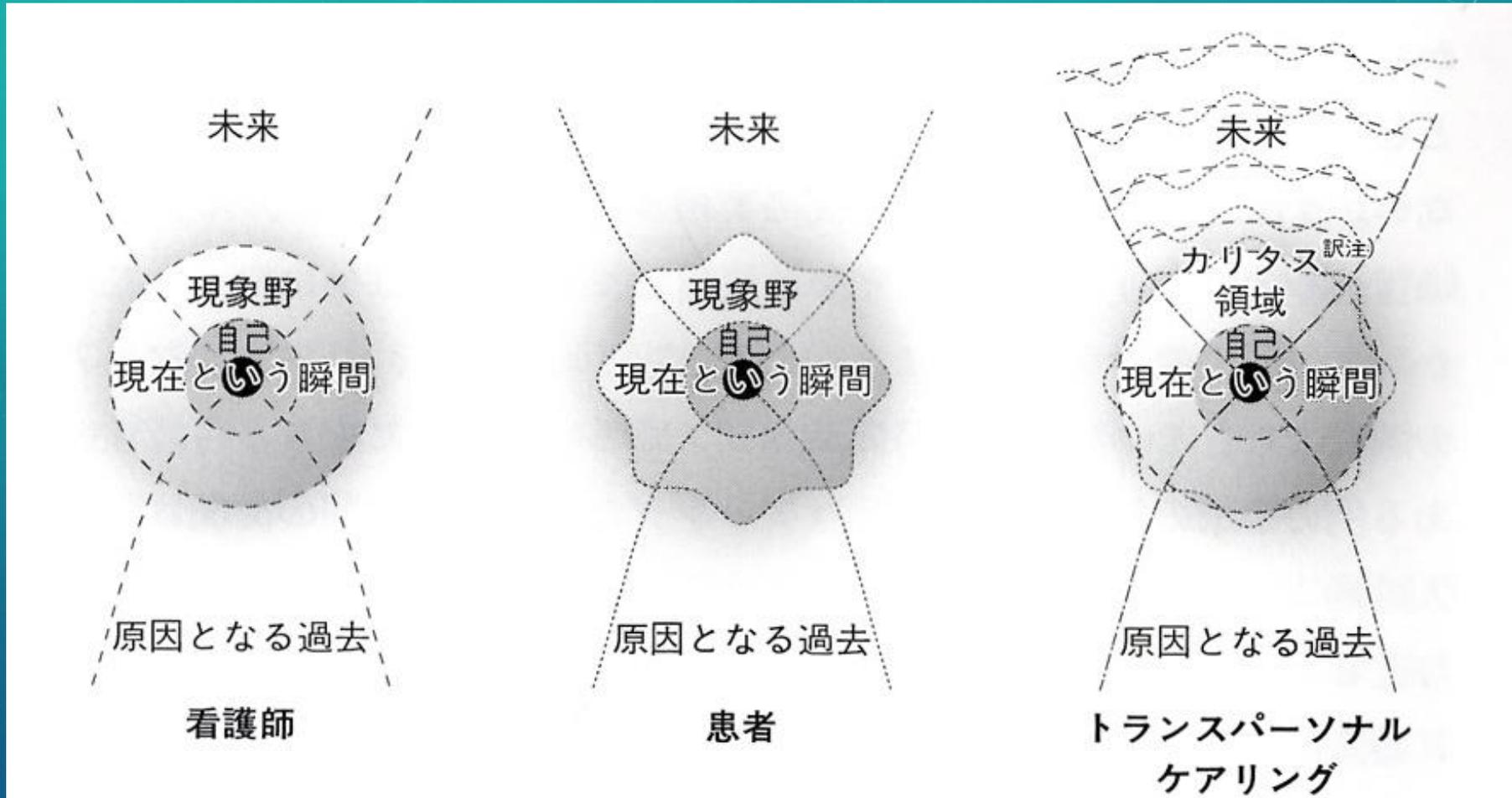
## 9 ニーズの支援

敬意をこめて、丁寧に、基本的なニーズを支援する。聖なる実践として、他者の具現化された魂に触れることに、意図的なケアリング意識を持つ。他者の生命力/生命エネルギー/生命の神秘と手を携えて仕事をする

## 10 実存的-現象学的 -スピリチュアルな力

人生の苦難・死・苦しみ・痛み・喜び・生活の変化すべてについて、スピリチュアルな・神秘的な・未知で実存的な次元に心を開き、注意を払う; 奇跡はありうる。これが知識基盤と臨床能力の前提とされる

# トランスペーショナルケアリング～ジーンワトソン看護論



ケアリングが行われる瞬間は時間・空間・物性を超えるものである  
各瞬間は次の瞬間を伝え、それぞれの生に影響を及ぼす

ワトソンのケアリング理論をもとに  
補完代替医療 Complementary and Alternative Medicine ; CAM を  
用いた 全人的ケアを実践する会

統合医療ヘルスケアシステム開発機構

ハマナス・音楽&看護研究会

略称 : **HOKT 1 2 3 研究会**

# HOKT 1 2 3 研究会

音楽療法士

アロマセラピスト

ヨーガ療法士



クライアント

CAM

音楽療法  
アロマセラピー  
ヨーガ療法



多職種共同

看護師/医療職

# HOKT 1 2 3 研究会

# ヨーガ療法の実習



# 会の流れ 当日までの準備

- 各担当者決め 企画書作り
- 各療法内で打ち合わせ
- 他の療法との打ち合わせ・準備

# 会の流れ・当日1 セッション前

## 準備

会場設営 受付・問診・交流コーナー

新規カルテ・配布資料・受け持ち決定・情報  
確認

## 受付

バイタルサイン：体温・血圧・脈・問診（体調・近況）

健康相談 お茶コーナーでの交流

## スタッフミーティング

看護職や各療法士から患者に関する注意点・ケアの  
共有するべき情報伝達

セッション開始前準備

# 会の流れ・当日2 セッション～

## セッション

45分のセッション 音楽・アロマ・ヨーガ

終わりの歌「今日の日はさようなら」 聴き取り

## 問診・体調確認

## 交流会

## スタッフ反省会

# HOKT123 参加者の語り① 癒し 平安

- リラックスして**楽**になった ・ 体が温まった
- 足と腰のしびれがなくなり感覚が戻った
- 心がかなり**落ち着**いている ・ **癒**された ・ 軽くなった
- 拝んでしまいたいような**感謝**の気持ち
- **幸せ**な気分 ・ ここはホッと**安心**な救われた時間
- 何があっても**安心**していただける。 **支え**になっている

## HOKT123 参加者の語り②感情の表出 関係

- 日常にとり入れられると思った
- 楽しみに待っていた。日常と違う環境に浸れる
- 会って語れることが嬉しい。弱音を吐けるようになった。
- 関係ができた事で、自分の思いや感情を言葉にして表すようになった。
- 参加者の〇〇さんに励まされた。

# HOKT123 参加者の語り③実存的 トランスパーソナルケアリング

- この会はスタッフも一緒に楽しむ。
- 同じ立場が嬉しい。
- 療法士の人もいろいろな体験をしてるんだと知った。
- 生きる事を意識していけるようになった。もっと意識を高めたい。

# HOKT123 スタッフの語り① 成長

- それまで自分の当たり前だったことが当たり前じゃないということや職種の違いをこの会で体験した
- 自分の事を人前で出すのは嫌だったが出せる場を与えられた
- 仕事するときやセラピーの勉強のときには「魂」という言葉がわからなかったが、患者さんやスタッフとのふれあいの中で魂を感じた
- 難病であっても、研究会というところでご自身を役立てたいときてくださる方々に出会えて一緒に時間を過ごす中で、人の役に立つ幸せや、人と人のかかわりの中での幸せについて実感した。集団ということについての意識が変わった。

# HOKT123 スタッフの語り 会の特色 場 学習

- **場作り**がすごい。山からお花を取ってきたり、栗を用意したり、メイン以外のところでの**おもてなしの心**を一人一人が持っている。自分だけじゃなく、**分け合える精神**が根っこにある。分け合う、共有していくというのは他では少ないと思う。
- **本物**にあえる。本物は感じるもので、人との出会いも感じたものが出るんだと思った。
- 仲間の**意識が進化**してきている
- 患者さんが仲間、みんなに会いたい場になっている。同じ職種じゃない皆が、背中にいろんな宝物をもってきて、その話を聴かせてもらえる**学校**になっている。

# HOKT123 スタッフの語り 会の特色 関係性

- ゆっくりり患者や家族と話し合え、通じ合えた気持ち
- 発している言葉などを、お互いに感じとれて、相乗効果があつて「響きあう」という言葉がわかつた
- 全てを受け入れてもらえる
- この会にけなしあいはなく成長する意見を言つて下さる  
できない出来たではなく、できなかつたらできなかつたで、次こうしていくという成長できる意見が出てくる。

# HOKT123 スタッフの語り 会の特色 関係性

- 患者さんやスタッフの間の関係性が、横並びで、お互いに親しい友人のような関係を作ろうとしているところ
- 異職種が協力しようとする気持ちは強い。
- へだたりがない。人が丸くつながって、その上に職種がある。
- 相手のことを大事に接するように気をつけている。否定的なことは言わないようにしている。

# HOKT123 スタッフの語り コラボからの学び

- コラボしていなかったときは他の療法の会の際は、邪魔にならないようにと動いていた。
- コラボのはじめは他の職種にもわかるように伝えなきゃというエネルギーが要ったが、体験してお互いを理解し合えた。伝え合おうという時期を越えてきた。
- 前は、はめ込んでいた
- コラボを何回か行っているうちに、自然にまとまって、一つの療法として行っている感じがするようになった。他の療法と一緒にやって、他の療法の持ち味と自分の持ち味がわかった。

# HOKT123 スタッフの語り コラボからの学び

- 今は、一緒に一つの会を作りあげているという意識。
- コラボを意識してやっていたのが、もうコラボを超えている。コラボという言葉はもう私の中になくなった。今は自然。
- 何をしたいかによってやり方はいくらでもある。
- 相乗効果で深みが出る。・パワーがある感じ
- 会全体を考えての仕事や望まれることをやっていきたい。
- 皆が自分の療法にしがみつかず、患者さんにとって会にとっていいものを作っていきたいという思い。
- 出会いがあり別れがあり、偶然にできている会ではあるが、メンバーの統合医療への気づきや意識が成長している

# ケアリングを実践する多職種協同チーム

- 患者さんと一緒に**学習し相互成長する**
- 皆で**作り上げていく 関係性**
- **新しいものを外に発信できる**

# ケアリングが広げる可能性

- 専門性からの冷静な視点を保ちつつも  
援助者とクライアントの生き生きした関わりと相互成長を促す
  - ・ ケアリングの実践に必要なものは目覚めた意識
  - ・ かけがえのない命を生きているもの同士の必然的な一期一会は未来を方向づけるという明確な意識
  - ・ 一人の人間として相手と自分のいのちに微笑んでみることから、ケアリングは始まる

# 謝辞

HOKT123研究会の参加者の皆様、スタッフの皆様、  
ご助言いただいた皆様に心から謝意を表します。

御清聴ありがとうございました

